

3.4 河川環境の整備と保全、河川の適正な利用及び流水の

正常な機能の維持に関する目標

白川は、熊本市の発展とともに治水対策の重要性が増し、整備が進められていますが、川本来の自然空間が減少すると同時に、人々が白川に親しむ光景も少なくなり、人々の意識から川が遠くなりつつあります。その一方で白川流域に残された阿蘇や中流域部の自然、熊本市街部の樹木による景観に対して住民の関心の高まりも見られます。したがって、今後の整備では治水と環境の調和を前提に、河川環境の整備と保全、白川特有の景観の保全と創造、人と白川とのつながりの回復、また健全な水利用と水循環を目指していきます。

3.4.1 河川環境

白川の河川環境の整備と保全を目指して次のことを目標とします。

【自然再生、水辺環境の保全】

白川のもつ自然環境を回復することを目指して自然再生に取り組み、魚類等の水生生物の生息空間、水際から陸地部にかけての動植物の生息・生育空間を保全、整備します。また、人工的な改変を極力抑えるよう努めるとともに整備前の河川への再生も念頭におき、良好な水辺環境の保全に努めます。

【河畔林の保全】

阿蘇の大自然と中流の自然空間、熊本平野の樹木群や緑地をつなぐ回廊の役割を担うべく白川を中心にした流域全体の緑の拠点づくりを目指して河畔林の保全に取り組みます。

【市街部の樹木保全と景観づくり】

洪水流下上のネックとなっている熊本市街部の子飼橋から長六橋において洪水対策を実施しつつ、地域住民に親しまれる景観を創造するため、樹木の保全と地域住民の意見を反映した整備を図ります。

【都市河川の景観再生】

すでに整備した市街部の堤防や河岸において、治水上の機能を維持しつつ、都市河川の景観再生を図ります。

【水質の改善、保全】

関係機関と連携し、水質の改善や保全に努めます。

3.4.2 河川空間の利用

人と白川とのつながりの回復を目指して、川づくりと日常の維持管理において次のことを目標とします。

【親しみのある川づくり】

水辺に近づく工夫や水辺や川の中で遊べる場所づくり、学校の環境教育の場づくりをとおした、親しみのある川づくり。

【利活用しやすい川づくり】

白川とその周辺地域の特性に応じた、地域住民に広く開かれた川の空間づくり、やすらぎと憩いの場づくり、賑わいと日常に密着した場づくり及び都市活動を担う空間づくりなど、利活用空間としての整備。

【情報提供と住民主体の維持管理】

白川に関する情報提供と、川の美化や迷惑行為の防止に対する住民主体の維持管理への取り組みに関する支援。

なお、親しみのある川づくりや利活用空間としての整備にあたっては、沿川住民の生活環境に配慮するとともに自然の素材を優先して活用することとします。また、住民主体の維持管理は白川への関心とモラルを高め、親しみのある白川づくりにつながるものと期待されます。

3.4.3 水の利用

白川の流れは、地下水とともに阿蘇から熊本平野に至る一つの水循環の中にあつて、白川の水量と地下水量には密接な関係があると考えられるため、白川の水利用については地下水の量を考慮する必要があります。一方、流域では上水や農業用水を地下水に依存しているため、地下水の変動について量的な把握をおこなうことが重要ですが、現時点で十分な解明ができていません。そのため、白川の正常な機能を維持するために必要な流量(以下 正常流量)の数値目標を設定できません。したがって、関係機関との連携等により水循環機構の解明に努め、白川の正常流量設定に向けて調査検討をおこなっていきます。

3.4.4 水循環

白川中流域は熊本市の地下水涵養源と考えられており、広域的な地下水流動機構を把握して、健全な水循環の保全を検討していく必要があります。そのためには、地下水涵養量を増加させる取り組みだけでなく、白川の流れの保全、健全な水利用など、流域全体で総合的な取り組みが求められ、河川管理者と流域の自治体、住民、水利用者が相互に連携して、効果的な取り組みを進める必要があります。

そのなかで、地下水を含めた白川流域と熊本地域の水循環機構の解明及び、水循環の保全と適正な維持について自治体や研究機関等の関係機関を支援、連携し、また、住民のひとりひとりが認識するように啓発を促していきます。